第5回境港市民交流センター（仮称）管理運営計画検討委員会 議事録（要旨）

日 時：平成30年10月3日（水）午後1時30分～3時15分

場 所：境港商工会議所 2階 第1会議室

出席者 【委員会委員】

野田委員長、池淵（美津子）副委員長、増谷委員、池淵（朗拡）委員、三好委員、松本委員、足立委員、新和委員、湯越委員、山本委員、安田委員、山田委員

【アドバイザー】

小林アドバイザー、田中アドバイザー

【事務局】

松本教育長、黒崎生涯学習課長、浜田生涯学習課課長補佐兼生涯学習係長、竹内生涯学習課文化体育係長、

< 次 第 >

1. 開 会

2. 議事

（1）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の基本方針（案）の修正案について

（2）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の事業計画（案）について

・ホール

・図書交流広場

3. その他

4. 閉会

<会議録（要旨）>

◆次第1は省略

◆次第2 議事について

（1）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の基本方針（案）の修正案について

○事務局から説明（資料P 1～2）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

<委員長>

前回、皆さんの方から出された意見と、私の方から指摘させていただいたことを踏まえて、最終的には昨日の段階でブラッシュアップしたものになります。皆さんの方からご意見、ご指摘があればなんでも結構ですからご発言ください。

◇（委員）

基本方針5の3行目の「各機能の連携を図り有機的で」というのがイメージできないんですけど、どういうことが有機的という表現が使われたのか教えていただければと思います。

◇（委員長）

これは私が入れたんですけど、「有機的」というのはそれぞれの部分が繋がっていて、役割を持ちながら連携して全体として動いているというイメージだと思うんです。要するにほっとくと縦割りでバラバラになってしまうから、それはダメでしょうということで、それをどういう風に表現するかなんですけど、より適切な言葉があれば言っていただければ変更します。

◇（委員）

ちょっと市民の一人として意味が想像できなかったもので、もうちょっと分かりやすい言葉で表現していただくといいと思います。

◇（委員長）

ここは宿題とさせていただきます。委員もいい言葉があれば言ってください。他にありますか。

◇（委員）

出来れば、社会福祉協議会の立場から言えば、基本方針4か3か分かりませんが、4で言えば「学習活動や文化活動」の後に「福祉活動」を入れていただければありがたいです。「福祉」という言葉がどこにも出てこないの、出来れば、基本方針3の

「文化振興」の後に「福祉の推進」というのもいいと思ったんですけども、「まちづくりの推進」となってますから、「福祉の推進」というのは入れにくいかもしれませんが、ここか基本方針4の中に「福祉」が入るようなことはできないかなと思いました。

◇（委員長）

事務局の方に確認しますが、「福祉」は、例えば「教育」とか「都市計画」とかいろいろな言葉の並びになるのかと思いますが、特段福祉を取り出す理由があって、そういう議論をこれまでされてきたのでしたら、それはそれで必要かと思いますが、その辺どういうことでしょうか。

⇒（事務局）

「福祉活動」ということの提案ですけど、先ほどの有機的などという表現と合わせて、ちょっと事務局の方で考えさせていただけたらと思います。

◇（委員長）

これは私の個人的な意見ですけど、例えば福祉を浮き立たせるなら、じゃあ教育はどうなんだ、医療はどうなんだとか言う話に、役所的にはなるのかなと一般的には思うんですけど。

⇒（事務局）

入れる入れないも含めて、考えさせていただきたいと思います。

◇（委員）

基本方針4で、情報収集と発信だけではちょっと弱いかなと思うんですけど、収集と市民から求めるものを提供、発信というものはこちらからするものなので、「収集、提供、発信」にした方が、提供を入れた方がいいかなと思いました。

⇒（事務局）

「提供」というのは当然必要だと思いますので、そういった表現に改めたいと思います。

◇（委員）

基本方針2のところ、
「子どもから高齢者、障がい者、外国人など、誰もがいつでも立ち寄れて、出会い、交流することにより、賑わいを創出することを目指します。」にした方がいいかなと、「施設」という言葉がちょっと引っかかりました。

◇（委員長）

それでいいと思います。要はですね、ここは「いつでも」が入ってなかったの、それを入れただけなので。だから「いつでも」、「誰でも」、「気軽」という言葉を入れることが肝だと思うので、それがどこに入ってもいいのだと思うんですけど、文章として1番スムーズに、すんなりいくように、今委員が言われたような方向で修正したらいいかと思います。はい、他に。

◇（委員）

キーワードで「防災の拠点」という言葉があるんですけど、基本方針の中で今一つ防災拠点なんだという感触が薄いような気がします。これだけ頻繁に災害が起こっていますので、今後もさらに酷くなることも十分考えられますので、「防災の拠点」を強調するような文言というのもあった方がいいのかなと思いました。

⇒（事務局）

「防災の拠点」、確かにご指摘のとおりで、入れるとすれば基本方針4に入れてもいいのか、でもちょっと視点が、「情報収集と発信」と「防災」を絡めるとちょっと後退するのかなと。6の方でちょっとそういった表現を入れて、「防災の拠点」というのがこの方針の中でうたわれるような形で考えてみたいと思います。

◇（委員長）

一般に言うと、防災拠点の中って避難場所のイメージしかないと思うんですよ。でも情報が入ってくるとか発信もできるとか、例えば携帯の充電ができるとか、色々なことがあるじゃないですか。そういうことを目指しますと、どれができるとかは別にして、あそこに行けば何か助けになるという、そういう方向でちょっと事務局の方で表現についても1回調整をしてください。はい、他にございますか。アドバイザーの田中さん、小林さんの方から何かありますか。

◇（田中アドバイザー）

「福祉」について先ほどお話がありまして、文化振興財団でも、音楽とホールはもちろんやっているんですけど、福祉の方との携わりというか、ホールの中でも障がいを持っている方が発表したり、色々な場面で携わることがありまして、私としては「福祉」という言葉もぜひこの中に入れてほしいなという思いもあります。それと前回の記録を拝見させていただいたんですけど、レストランの話があって、例えばそういったところで福祉の関係の就労支援という事業もされているところもありまして、そういったカフェとか、例えばパンの製造とかしているところもあります。そういった参加できるスタイルというの、1つの形で福祉が携わってくるのではないかと私は想像しています。もちろん色々な意見がありまして、最終的には決まっていくと思

いますけれど、ぜひそういったこともあるんだよということで、1つ参考にしていただければと思います。

◇（小林アドバイザー）

図書館の立場で意見を言わせていただきますと、基本方針のところに「提供」というのが入ったのは図書館的にはすごく大きいかと実は思っておりまして、図書館、資料の収集とそれを発信するわけですけど、住民が求める情報要求にいかに応えていくか、提供していくかというのは図書館の根幹に係わる部分なので、それをきちっとやるということを意思表示していただく言葉が入るのは非常によかったんじゃないかなと思っています。そういう運営をしていただければいいかなと思います。

◇（委員長）

はい、ありがとうございました。それでは他にございますか。それでは1番目の議題は終わりにします。また何か気が付かれたら、戻ってご発言ください。引き続きそれでは事業計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

（2）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の事業計画（案）について

○事務局から説明（資料P 3～5）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

◇（委員長）

先程の基本方針をブレイクダウンして、事業面をもう一段階詳しく書いたものが、今説明があった事業計画（案）になります。どこからでも結構ですので、ご意見をお出しいただければと思います。アドバイザーの方も専門的などころですので、どんどん意見があればその都度言ってください。

◇（委員）

3ページの事業計画の真ん中の「会議室」というのはリハーサル室も入ります。実際の事業としてはミニ公演とか、ミニコンサートも含めた発表会、音の出るものならリハーサル室でできますし、そういう事業もすると年齢層も違ったのが来られるかなと思います。ミニ公演、ミニ発表会っていうのも入れてもいいかなと。ミニコンサートとはっきり入れますか。美術作品と書いてあるからミニコンサート。

◇（委員長）

リハーサル室はコンサートに限らず、レッスンとかできますよね。だからあまりコンサートだけに限定せずにもう少し幅広く言ってもいいと思います。

⇒（事務局）

幅広にちょっとするような表現で追加したいと思います。

◇（委員）

それから「福祉」の下から2行目に「福祉バスの運行」とありますけれど、質問になります。今ある「はまる一ぷバス」をもっと便利にさせる方がいいのかなど、福祉の方でまた福祉バスを新たに設けるっていうのは、いわゆる縦割り行政のような感じがして、勿体ないなという風に思いました。

4 ページ目の事業方針案③のところで吹奏楽の事だけ書いてあるんですけど、合唱とかダンスとか、そういうものもあります。実際、合唱はシンフォニーガーデンを使っています。よく響きますから。前の市民会館は吹奏楽でしたが、交流センターがどうなのかわかりませんが、そういった色んなステージ発表も、学校でのそういったものに利用できるような、吹奏楽だけではないよという表現にされた方がいいと思います。

5 ページ目、検討内容の一番上、「子どもからお年寄り」とここだけお年寄りが使っているんですが、基本方針の2に「子どもから高齢者」となりましたので、ここは「高齢者」の方が適切かなと思いました。それからその下の事業方針で、③に「水木しげるロードなどに関連する」とありますが、記念館にも色々な資料がありまして、図書館の方との兼ね合いはどうかなど。図書館の方は主に市民が使う、観光客はあまり来ないかもしれませんが、観光客を呼び込みたいとすると記念館の方とどうなのかなど。あまり記念館に迷惑をかけてもいけないのかなど思ったり、こちらは無料、こちらは有料ですので。同じ資料があってもいいかもしれませんが。

◇（委員長）

そうするとかなり何点かご指摘があったので、1つずつ行きたいんですが、まず「福祉バス」と「はまる一ぷバス」との関係はどういう風になっていますか。

⇒（事務局）

「福祉バス」というのは、今実際に社協さんがバスを持っておられて、その「福祉バス」の意味ですので、新たにバスをとるわけではないです。あと、図書交流広場の検討内容の「子どもからお年寄り」というところは「高齢者」に直します。あと先ほど吹奏楽に限定しているというところは、吹奏楽以外も使っていただけるような、幅広で出来るような形の表現にしたいと思います。水木しげるロードのところは多分、今、図書館が水木さん関係の展示をしているのは、恐らく記念館とは被ってはないと思うんですけど、そこは確認させてください。

◇（委員）

水木しげるさんにこだわらなくて、私は妖怪をテーマに図書館は集めるべきじゃないかと思います。水木しげるさんのはもちろん、置くのは基本ですけれども、日本の妖怪とか、世界の妖怪とか、もうちょっと深く広くコーナーを作って、日本中の妖怪の研究者とか、子どもたちが境港まで行って、水木しげるさんの妖怪プラス色々な全国の妖怪を調べようとかいう、研究者や子どもたちの自由研究とか、そういうものに役立つぐらい徹底した、妖怪に特化した図書館になればいいなと思っています。

◇（委員長）

個人的な考えですけど、今の委員の意見に全く同感で、当然ですけど作る時は向こうと相談しながら民業圧迫にならないようにするのが当たり前ですけど、今おっしゃったのは、水木さんに限らずということなので、むしろ境港の図書館って妖怪のすごい本があるらしいよとか、研究している人がいるよとか、ちょっと10年位前ですが、パリの日本文化会館で妖怪展ってやったんですね。江戸時代からの妖怪の絵画であるとか、文学であるとかを展示して、それまでの最高の人が入ったそうです。海外でも日本の妖怪に対する興味を持った方がたくさん居られるようなので、今言われるように、むしろより興味を持った人が、図書館まで行ってみよう、そこで本格的な色々な本があるっていう風になると、それは連携できるんじゃないかなと思います。

◇（委員）

3 ページの一番上の、事業計画の基本理念なんですけれども、もう一度よく見直してみたら、「市民が集い、安心できる、交流と防災の拠点づくり」、これだけを見ると、図書館の機能がほとんど入っていない。図書館の機能も入れた方がいいんじゃないかなと思いました。山口でも複合施設に、6、7割の方が図書館を目的として入って来られることもあります。例えば、「知と文化の拠点」という言葉をよく使うので、「知と文化、交流と防災の拠点」、又は「知と文化」が硬いなら、「学びと情報、交流と防災の拠点」で、サブタイトルが「みんなが集まる広場のような複合施設」、基本理念に「複合施設」という言葉が入った方がいいのか、ここもまた引っかかってしまって。でも「広場」という言葉はとてもいい言葉なので、例えば「暮らしの中に生きる広場として」はどうかなとか。ちょっと「市民が集い、安心できる、交流と防災の拠点づくり」では、図書館の理念が全く入っていないので、出来たら「知と文化」とか「学びと情報」とか、そういう言葉に直していただくとありがたいですけど。

◇（委員長）

今の件ですけど、逆に文化の視点も入ってないんですよ。だから図書館だけ入れると文化も入れなきゃいけない。ですから今言われた「知と文化」っていう言い方だったらいいなと思います。僕も今言われてみると改めて複合施設って関係ないですよ

ね。あり方を言っているだけで、説明的ですので、むしろみんなが集まる広場っていうのをベースにして、今言ったホールの機能と図書館の機能をちょっと抽象化したような言葉で2つ入れられたら1番いいですね。何かそこを考えてみたいな。はい、事務局。

⇒（事務局）

ここについてはですね、もう既に基本計画という冊子になった形のもので、この基本理念っていうのを定めたという経過がありますので、ここについては中々変更ということにはなりません。図書館という言葉がないということだったんですけど、事務局としては交流ってところに入っているんじゃないかという風に考えています。

◇（委員長）

フィックスしているのは、基本方針が6つありますよね。ここまでがフィックスしているということで考えていいですか。

⇒（事務局）

基本方針については、これはあくまで管理運営の基本方針なんで、基本理念についてはもう決まっている。

◇（委員長）

基本理念については、議論する余地がないということですので、その前提で修正するなら基本方針のところからになります。

◇（委員）

わかりました。それとその下の基本方針4にやっぱりここも「情報収集、提供、発信」と「提供」を入れていただきたいと思います。

⇒（事務局）

そうですね、先程のところとリンクしていますので、そうします。

◇（委員）

図書交流広場の事業のところ、主な図書館の事業で、サービスまで図書館は仕事なんですけれど、ちょっと引っかけたのが、「サポータークラブの設立」というのは仕事内容とはかけ離れるので、「市内全域サービス」の下に順番を変えた方がいいかなと思います。私も「応援団」が何かいい言葉がないかなと思い、1番分かりやすいのは「図書館ボランティア」かなとは思いつつ、いい言葉がないかなとは思ったんですけど、「設立」というのもちょっと引っかけます。それとホールの場合も

主な事業があつて、最後に「自衛隊員との交流」がありますし、図書交流広場も色々な事業を含めて「防災・自衛隊の関連資料の展示」というのが1番最後に来れば基本方針も6番目に書いてあることですし、何か4番目に突然そういうのが来るのより、スッと流れるのは「防災・自衛隊」は最後の方がいいんじゃないかなと思います。

◇（委員長）

今の重要度に関しての並び替えの問題が1つ、それについていかがでしょうか、事務局の考え方。

⇒（事務局）

「サポータークラブ（案）の設立」は下の方にとということで、ちょっと「防災・自衛隊の関連資料の展示」は、事務局の方で下に持ってくるのか、そのままにするのか、そういった理由も含めてちょっと検討させてください。あと「サポータークラブ」という言葉と「設立」というところがちょっと引かかるということがあったので、表現も含めて、改めて事務局の方で考えてみたいと思います。

◇（委員長）

それは本来市民の利用者が自発的に作るもので、設立っていうのは違うでしょってことですよね。引き続きご意見があればどうぞ。

◇（委員）

もう1つ、一番上の幅広い資料・情報の収集「と提供」、やっぱりここも「提供」を入れていただきたい。

⇒（事務局）

リンクしていますので、当然直します。

◇（委員）

5ページの事業方針（案）の1番、「知の拠点として市民の要求に応えるため、資料を充実させます。」というところ、もう少し具体的に郷土や行政資料の収集、保存、提供とか、市民の生涯学習支援のための充実とか。すごく丁寧に書いてあるところからおんぼらと書いてあるところとか色々あるので、これも市報とかに載ったりするなら、この機会に図書館の仕事、内容というのは分かってほしいという思いがありまして、具体的に書いた方がいいかなと思って、ちょっと話を続けます。1番の場合は、市民の課題解決のための資料とか生涯学習のための資料の充実とか、地域行政資料の収集、保存、提供とかそういうのもあります。2番のレファレンスのところに、出来たらビジネス支援っていう言葉を入れていただきたいくて、県内の図書館では、ビジネ

ス支援というのは当たり前ですけど、市民の皆さんが理解していただくためにも、ビジネス支援とか、生活情報とか、観光情報とか、医療・保健とかそういう情報を提供しますって書いた方が分かりやすいかなと思っています。それと3番の、ここがとっても、小さい図書館で本もあまりないけれども、地域の特性を生かした境港らしい図書館を作っていくためには、具体的に書いた方がいいと思います。水産業とか魚、妖怪、水木しげるさんもあっていいし、それから伯州綿、弓ヶ浜緋とか、環日本海とかそういう資料を充実させますって書いた方が、いいんじゃないかなと思います。それから5番は、県内全域図書館との連携じゃなくて、国会図書館とか大学図書館とか色々な関連機関とのこともあるので、図書館ネットワークとの連携でもいいかなと思ったんですが、ちょっといまいちです。それと6番ですが、学校図書館支援はこの前提案したんですけど、子どもの読書というのもし入れたらいいかな、子どもの読書と学校図書館支援ということでブックスタートとか、「司書さんが選書します」とか、ここだけがすごく柔らかい文章になってて、学校との連携とか、団体貸出とか、そういう表現の方がいいんじゃないかなと思いますけど、ブックスタートとか子ども支援センターへの支援とか、小さい子どもとの読書環境とかも連携をしているんだよというのを入れた方がいいと思います。7番の各種行事の開催も読み聞かせよりお話会の方がいいかなと、お話会や読書まつりも図書館も一緒にしていますので、お話会、読書まつり、講演会、講座、イベント、色々行事にこんなのも入れるんだなっていうことがあった方がいいかなと思います。

◇（委員長）

すみません、恐らく事務局フォローが出来てないと思うんですよ。もしよろしければメモ書いて教授した方がいいかもしれません。ご専門家だからすごく詳細にわたってて、正論だと思うんですけど、ホールもそこまで細かいことを言っていないから、バランスを欠くところもあるのかなと思います。言っていることを否定しているわけではありませぬので。

◇（委員）

わかりました。私もどこまで話をしたらいいのかなと思ってまして。ここでないといけないのかと。

◇（委員長）

方針ですから、事業内容のある程度細かいところは、それを代表するような表現が入っていればいいと思うんですね。あとで実際実務のところで作っていきますので、ただこれが入ってないといけないというのがあればぜひ言っていただかないといけないですが、そこはご指摘いただければと思います。そういう観点であと残りもあればご指摘ください。ほかにございますか。

◇（委員）

4 ページの事業方針 6 の「心のケア・支援、安心を与えることができる施設に努めます。」っていうのはちょっとイメージが湧かなくて、ここは安心や落ち着くような外観とか環境の施設にするのか、それともセラピストみたいなそういう人を置いたりするのか、ちょっとこのイメージがもうちょっと湧かなかったので、教えてください。

⇒（事務局）

図書交流広場や会議室と連携してと書いてあるんですけど、図書館っていうのが災害時に心のケアとかに熊本地震とかでなっているということで、うちの複合施設の強みっていうか、避難所と併設して図書交流広場があるっていうところもあるので、そういう意味で安心を与えるっていうことで表現をさせていただいているところです。

◇（委員長）

今の点で改めて私も気になったんですけど、主な事業の 6 番目が「災害時の避難所」となっていますが、「避難所」だけでいいのか。そうじゃないですよ。色んな機能が今求められてきているから、とりあえず何か災害になったとき、そこに行けば色んな情報があるとか、被災者に寄り添った活動がきめ細かくできるとか、ワンストップサービス窓口みたいなイメージもあるなど思っていて、ちょっとここは避難所に含むもう少し広い概念にした方がいいような気がしました。ちょっとまたここはご検討いただければと思います。

◇（委員）

関連して、心のケア、先程のホールの⑥ですけれども、「心のケア・支援、安心を与えることができる施設に努めます。」これは基本計画の中でも載っているんですけども、ホールではなく、図書館の機能として載っている部分だという風に思っています。複合施設全体としては、ホールは避難所だけではないというところはありますけれども、災害時、ホールのところは平土間にして避難所に充てるという計画がございいます。その中で図書交流広場の方ですけれども、図書交流広場の方も要配慮者の避難所として活用していきたいという考えがありまして、私の意見としては図書交流広場の事業方針案の中に要配慮者の避難場所としての活用を、上のホールと同じ様に入れてもらえたらという思いがあります。

◇（委員長）

そうですね、ある事例を紹介したいのですが、当初計画していたことの想定外の事が起こったときに、図書館です、ホールですと言っていられなくなる例が、例えば仙台のメディアテークだったんですね。メディアテークがオープンしたら東日本大震災

が起きて、災害の事を想定してなかったんだけど、避難所になったんですよ。だからここは図書館ですという前にそうなったんで、要するにそういうこともあるでしょと、場合によっては。そこはあらかじめ想定を超えたこともあるから、だから幅広い表現をしといた方がいいかなと思うし、という趣旨で言いました。だから優先順位からしたら、もし万一のときにも、こういうことが起こった時にまずはそこが頼りになるような、そういう場所をという意味かな。

⇒（事務局）

補足してですけども、先程の図書交流広場で要配慮者の避難所というところは、普通の避難所っていうのはだだっ広くて、仕切りとかがあまりなくて、プライバシーっていうかそういうのが保てないというところがありまして、今、事務局として図書交流広場を避難所みたいな形で想定するとすれば、書架と書架の間を、スペース的に人1人と車椅子が1台くらいのスペースを想定しているんですけども、そういったところに小さいお子さんとかがいらっしゃるご家族とかは、中々普通の避難所だと、お子さんの声とかを配慮して、車の中で避難される方が多いとか、そういったケースがやっぱりあるみたいですよ。最近の地震とかを見ると。そういったケースの時に、ある程度仕切られた空間で、要配慮者とか小さいお子さんがいらっしゃる家族とか、もし避難する場合に、図書館のスペースで使えればと今考えているところです。

◇（委員）

ホールの中の2番目ですが、最後の「音楽以外の芸術文化公演の鑑賞機会を提供します。」の中に、式典が入っているんですけど、この辺りがちょっと違和感をすごく感じるんですけど、文章的に。式典っていうのは1つの項目としてどこかできちんと挙げた方が、芸術活動と式典が相容れるのかどうか思っていてまして、鑑賞するわけでもないし、そのあたりが文章的にいいのかどうかちょっと疑問に思いました。

⇒（事務局）

式典っていうのが、今言った2番の演劇とかそういったのはきちっと区別して事業として挙げるべきというご意見ですが、それはちょっとまた検討させてください。

◇（委員長）

あまりにも式典を独立させるっていうのはどうか。

◇（委員）

でも、最後に「音楽以外の芸術文化公演の鑑賞機会を提供します。」と書いてありますので、その辺りがちょっと。

◇（委員長）

そこは整合性を取った方がいい。はい、他に。

◇（委員）

3ページの事業計画の会議室ですけれども、「美術作品展示」という風に追加されているのですが、作品展示は美術関係だけじゃないので、各種展示、美術にこだわることはないと思います。それと先ほども意見がありましたけれども、この会議室を多機能に使うということ、最初の段階から皆さんで協議したことです。多機能に利用促進を図るとか、1つの会議室なりリハーサル室が色々な場面で使われるということ、事業として考えているということもやはり入れた方がいいかなという風に思います。それと言葉でちょっと気になったのが、5ページの図書交流広場で、6番の「出張して子どもたちに本を読みたくさせる」と書いてありまして、ちょっとこれはおかしいなあというか、上から目線みたいな感じが、ちょっと表現を「子どもたちに更に本に親しむように」とか、何かちょっと表現を変えていただいた方がいいかなという風に感じました。

◇（委員長）

ちょっと私の方から。まず3ページの会議室の主な事業で、美術作品展示っていうのは私の方で訂正させてもらったんですけど、各種展示でもいいんですが、そうすると民間企業が製品を展示することに使いたいといったときにどうするかっていう対応を議論しないといけないですね。販売促進で。それがOKかどうか。貸館事業なので、OKでいいですかね。

⇒（事務局）

貸館でお金を払われる分には。ただ「主な」ってところがあるので、「各種」というよりもその展示だけではないという意味合いが、「美術作品展示等」とかにすればいいのか、「美術作品等展示」とか。「主な」っていうところと「各種」っていうところが。

◇（委員）

「美術作品展示等」とかがいいのでは。

⇒（事務局）

ちょっと事務局でその辺を議論したいと思います。

◇（委員長）

それから今、もう1つ同じところに「多機能」ってあったんですが、取ったんです

よね。「多機能」は事業じゃないから。言うんだったら例えばこういう事と言った方がいいと思うんですね。これに挙がってないので、何か想定されるものがあれば、具体的に書いて、「等」とすればいいかなと思います。何かありますか。

◇（委員）

先程の委員が言われたような形で具体的にすればいいのでは。

◇（委員長）

先程の委員のご説明をベースに、表現したらいいということですね。どういう事例でしたでしょうか。

⇒（事務局）

ミニコンサートとかそういった類の事だったと思います。

◇（委員）

リハーサル室という機能があるのですし、ホールのリハーサル室として使うはずですので、それはきちんと書いた方がいいと思います。

◇（委員長）

両方で使うことが必要になってくるね。

⇒（事務局）

3つある内の1つがリハーサル室兼になっています。

◇（委員長）

会議室、リハーサル室って併記でした方が。

⇒（事務局）

そうですね、その会議室のところに括弧でリハーサル室ってした方がいいですね。

◇（委員長）

会議室だと遠慮しちゃって、併用なら併用としないと。よろしいですか。

⇒（事務局）

あと、先程委員から読みたくさせるっていうのがちょっと上からということもありました。ちょっとここは表現を改めたいと思います。

◇（委員）

4 ページのホールの事業方針案⑤の「平土間スペースでは、美術品の展示、高齢者の介護予防等の運動や各種展示会など」を、「美術品の展示と各種展示会、高齢者の介護予防等の運動や福祉イベント等の開催」と、ちょっと「福祉イベントの開催」を是非とも入れてほしいというのがあります。と言うのが今、市民社会福祉大会とか場所がないので、文化ホールでしているものもあったり、例えばことぶき文化祭だとか、傾聴講演会だとか、高齢者のためのイベントがかなり最近多くて、出来ればそういった高齢者等のイベントも含めて、「福祉イベント等の開催」っていうのをぜひとも入れて欲しくて、展示会などで終わっていますので、最初に美術品の展示があるので、ここにくっ付けて、美術品など各種展示会にしたらどうかなと思っています。

◇（委員長）

社会福祉も含めて様々な形で使えるよということを表記したいので、そこは高齢者だけあまり浮き立たせて2つも書くのはおかしいかなと思います。子どもたちはどうなんだという議論にもなりますし、だから介護予防等の運動というのは限定しすぎると思うので、高齢者の色んなイベントとか催し物とかは1つ書いてもいいと思うんですけど、そういう風に少しすっきりできるかなと思いますけれども。

◇（委員）

介護予防の運動は、週に2回しているんですよ。

◇（委員長）

それは現実であって、ここは新しい施設ですから、そこは含むような表現にしとけば、そこに移行すればいいわけですから。別に細かく、ちょっとバランスを欠くと思うんですね。細かい事業名を書くと。

⇒（事務局）

今、委員長と委員の意見がありましたので、その表現というか、そのあたりちょっと事務局の方で考えたいと思います。

◇（委員）

今、管理運営計画の事業計画案のところで細かい議論がいっぱい出てるんですけど、管理運営計画というものの全体像がですね、よく見えてきていないのかなと思ひまして、管理運営計画の全体像の冊子が、最終的に冊子を作りまして、その中の今はどこの部分をお話しているのかということがですね、皆さんがわからないままに話が進んでいるのかなと思ひまして、その中に、あまりここは委員長がおっしゃるような細かい部分を言っていく場面じゃないのかなという風に思ひますけれども、どうでしょ

うか。

◇（委員長）

A3の用紙に横にして、理念があって、基本方針があって、管理運営計画があって、事業の方針があって、事業があるっていう、これぐらいの話を一覧にしないといけないです。ですから、今1番、皆さんお詳しいところで議論が盛り上がりがちですけど、今ご指摘のところは、管理運営計画のマッピングが分かってないんじゃないのという話で、僕もわかってないところがあるので、ちょっとただ今日はこういう議題で議論させてもらって、それを追加修正加筆しながら、最終的には大きな関連付けたもので、もう1回見てみる必要があると思いますので、その時に又、もう1度細かい事業も想定しつつ、でも全ての事業まで書ききれませんから、そこら辺り、ここで言う事業方針に出ている事業のこのレベルで考えるのかなと思いますけれど、本当はその次の段階に、各1個1個の事業が入ってくると思うんですよ。そうすると5つか6つくらいの階層に分かれると思うんですけど、そういうものが最終的にはできるのかなと思いますけれど。今日は、この議論を引き続き続けて行った上で、あと次に管理運営計画がガッチャンコするイメージかなと思います。そうするとそこはそれでまた、色んな矛盾が見えてくる。よろしいですか、それで。

◇（委員）

また戻るんですけど、基本理念のところ「防災の拠点づくり」って書いてあるんですよ。大元の元に。3ページですね。そのあと事業計画に分かれて、交流・防災のところにはあるんですけど、ここに災害時の防災拠点ってあるんですよ。で、事業方針として、これだけ理念にも挙がってて、計画にも挙がってて、この防災拠点が他とどう差別化、違うのか、この市民交流センターが出来て、もう少し明確に事業の中に入ってないと、ちょっと弱いのかなと思ったんですけど。

◇（委員長）

その点事務局、例えば防衛省の方からこういう事業をやると具体的に言われてたりしているんですか。

⇒（事務局）

防衛とのやり取りの中では、自衛隊員との交流というのがメインで、この施設は交流施設だよということは言われています。例えば図書交流広場だったら、防災とか自衛隊のコーナーが要りますし、ホールとかを使うにあたって、自衛隊との交流というところがきちっと出るようなものやっつけていかなければいけないとか、そういったことが、防衛省の補助事業をやるというところで、実際に館を運営するにあたってはそういったことが必要になってくる。

◇（委員長）

交流センターに常設の展示スペースもあるわけですね。

⇒（事務局）

はい、そういったこともやっぱり、はい。

◇（委員長）

あとやっぱり市民の方から見て、自衛隊っていうことで1番身近なのは災害出動だから、地震、台風、原発事故を含めた有事の時の事を全体として信頼できる機能があるよと、そういう風に、そういうのが差別化だと思うんだけど、そこが弱いというご指摘ですよ。そこはちょっと引き続き課題として、考えましょう。表現も含めて。

⇒（事務局）

防災拠点の1つでいうと、自治防災課が新しい施設には入るので、今の市役所自体というのは昭和35年に出来て、平成22年に耐震補強はしていますが、耐震補強というのは前の丸田委員長さんも言われてましたけど、耐震補強をしたからと言って建物が新しくなるわけではなくて、それに杖をするだけということですので、防災拠点というのは、もし市役所が大災害で、今、全部駄目になるというのは普通にあり得る時代ですから、そういったときに新しい施設にはそういった部署が入って、災害対策本部ができるっていう形っていうのが1つの防災拠点としての強み、あと、尚且つ避難所としても、ホールが平土間で使えるというところ、そういったところが防災拠点っていう強みだと思っています。

◇（委員）

それは市民の方に見えるようになっていきますか。今、説明されて分かるけれども、要するにこれだけ見たって市民にはわからないと思います。

⇒（事務局）

そこは表現とか、そういったところでやっていくというところが。

◇（委員長）

市民にとってもこういうものが出来て、安心できるよねとそういうことにしたいということですよ。

◇（小林アドバイザー）

小学生、中学生が読んでも、ここ行ってみたいなと思うような表現になっていればいいと思うんですけど、先程の会議室の横にリハーサル室を併記した方がいいとい

うことがあったんですけれど、リハーサル室もまだ分かりにくいかなと。例えば音楽活動室とか、これ自分も使えるかもしれないなということを感じてもらえればいいかなと思います。実は他の複合施設でも中高生がバンドの活動をしたくてしょうがないと。でも大きな音が出せる場所がなくて、引切り無しにそこに通っているという例があるので、君たちも来ていい場所なんだよというメッセージが伝わるといいんじゃないのかと、勝手に思いました。あとレファレンス機能という言葉は、図書館では当たり前前に使う言葉ですけど、よくわからないんですよ、レファレンス機能って。資料相談（レファレンス）を県立図書館では使おうかなとされていて、レファレンスだけ単独で使っても何の事か分からないのでということがあります。あと5ページのところ、「子どもからお年寄り」ですべてと書いてあるんですけど、やっぱりここは障がい者、外国人を入れなきゃいけないかなと。⑩のところにユニバーサルデザインと書いてありますので、誰もがっていうことを書くなら、各世代に加えた方がいいかなと思います。それから先ほど利用者が必要とする情報ってところにビジネス支援って書いたらどうかという意見が委員の方から出ていましたが、図書館の世界で今、課題解決型の支援とか課題解決型のサービスって言います。個人が抱えている課題や、地域が抱えている課題に対して、いかに貢献する資料を提供していくのかと、その1つが仕事に役立つビジネス支援だったり、自分の健康に係わる情報だったり、あるいは生活上の法律に係わる情報だったり、個人の課題や地域の課題を解決するというような表現を使えるかもしれないなと。ビジネス支援だけ行くとどうしてもそこだけが突出してしまうので、例えばビジネス支援みたいな表現の仕方はあるのかもしれないなと。それから3番の部分、資料や蔵書と書いてあるのですが、一般的には資料の中に本も含めますので、蔵書がなくても一応資料で本も含めているのかなと。あと5番ですけども、県立図書館を独立させていただいたのは非常にありがたいんですけども、ぜひここは大学図書館等も入れていただけるといいのかな、西部で鳥大の医学部もありますので、そういう連携も使えるというものです。あと利便性の高いっていう、これ便利だなということよりは実は質が高いって言いますか、簡単なものから難しいものまでっていうような、入門書から専門書までというようなことが感じていただけるような表現の方がいいのかなと思ってました。それから6番に、「学校と連携しながら、授業や学校運営に必要な図書などを司書が選書します。」と書いてあるんですけど、学校には司書教諭が居て、学校司書が居りますので、授業に必要な本は実は学校の中にきちんと選べる人たちが居るわけですよ。でこれを図書館の司書が選ぶという具合になるとちょっとイメージが変わってくるので、ここは司書が選書しすではなくて、提供しますぐらいの方がいいのかなと思います。あとホームページ・フェイスブック・ツイッターとありますが、フェイスブック・ツイッターだけかみたいな話もあるので、まとめるとSNSとかソーシャルネットワークみたいな表現の方がいいのかなと思います。10番ですけど、どういう具合に書くかなんですけど、「図書情報の電子化を進めます。」と書いてあるのですが、これは本をデジタル撮影

してそれをネットに公開していくというイメージで読めるんですが、今のところそういうサービスを公共の図書館で中々やれないので、電子ファイルの本を買って提供する、電子書籍を購入して提供するっていう場合と、普通、図書館に来ても見てもらえないような貴重資料、貴重図書をデジタルファイル化して公開するって、実は2つの意味が一般的なんですけれど、境港としてどちらを想定していらっしゃるのかということ、少し分かりやすく書いた方がいいのかなと思いました。あとはサポータークラブの話がありましたけれど、設立はやっぱり自分たちがすることなので、応援団との連携、協力みたいな表現の方がいいのかなと思いました。

◇（委員長）

ありがとうございました。先ほどの委員からあった子どもからではなくて、赤ちゃんからというのは、県立図書館ではその辺の議論はどうなっているのですか。

◇（小林アドバイザー）

県立図書館というよりは、図書館界で今、マタニティーブックスタートみたいな言葉があって、赤ちゃんがお腹に居るときから読み聞かせをすればいいんだよみたいな。県内でもすでにそういう事業をしている自治体もあります。ですから赤ちゃんからと書いて、別に極端な言い方ではなくて、もっと前からやっているという事例もあるので、それは入れてもいいかもしれませんね。鳥取県の全ての自治体でブックトークをやっています。ですから6ヶ月健診の時に絵本を手渡すということが行われていますので、赤ちゃんからという表現はありかなと思います。

◇（委員長）

ご存じない方も居られるかもしれませんが、鳥取県立図書館は、Library of the yearっていう図書館の賞をもう2回取ったんですよ。第1回目とこの前。10回ちょっとやって、2回取ったのは初めてで、それだけやっぱり全国で鳥取県立図書館っていうのは注目されているので、その名に恥じないような図書館を作らないと、何だあれはと怒られちゃいますから、頑張りましょうねということと、僕もちょっと感じたのは、さっき電子資料があったんで、これからはですね恐らくアイパッドに移してそれを貸し出すようなことが出てくると思うので、先端的なテクノロジーを導入していきますぐらいの、幅広い表現にしといてもいいのかなと思いますけれど、ぜひそこはやっていったらいいのかなと思っています。

◇（田中アドバイザー）

先程リハーサル室の事が出たんですけど、ホールを管理しているところに居ますと、リハーサル室というのはホールとの係わりが強いのかなと日常的には感じておりまして、例えば、吹奏楽とかたくさんのおーケストラとか自衛隊の方が来た時に、リ

ハーサル室という部屋が控室になる可能性もあるのかなということは想像しています。バンド活動とか個人の練習とかは練習室って呼び方をしているんですね。その方がはっきりと理解し易いのかなという風に思います。あとホールの方で、2番のところで式典の事であったと思うんですけども、今、式典は多様性がありまして、式典だけじゃなくて、式典の中に講演会やディスカッションがあったりとか、地元の文化活動者の発表、音楽、踊り、様々なものがありまして、確かに式典という言葉だけだと中々厳しいと思うんですけど、式典とアトラクション、そういうイメージがあれば文化に近いのかなというのを感じました。それから6番の災害時の避難所なんですけれど、私たちの財団も未来中心と県立文化会館を管理していきまして、どちらも避難施設になっております。実際にはこれまで受入れというのはなかったんですけども、いつも管理していてテーマにしているのは、避難してきた人たちが、今どういう状況なのか、どうなっているのか、不安になってくると思うんです。ですので、そのあたりの安心感っていうのをどう伝えていくかって言うと、防災の拠点に入っているでもその防災の拠点の情報の中にいる人たちに伝わらなければ、その人たちも不安になってくるのかなと思いますので、今リアルタイムの状況を情報発信が何かしら出来たらということで、私たちの施設では、そういった案内表示とかをLANで繋いで中心の情報を発信するようなシステムを構築しようかなと思って計画したりしております。それから1番基というか、私たち文化振興財団のところで大事な「文化振興」っていうところですが、基本方針の中には、例えば基本方針3のところだと、市民が主導する文化振興ってここに入っているんで、大きな流れはあると思うんですけど、例えば4ページのホールのところ、そこに戻っていくと、この中で文化振興、特に市民の方が主導っていうか参加するっていうのがこの中でどこに入っていくのかなと思いました。私たちがやっている文化振興というのは、もちろん1番、2番の優れた作品とか演劇・舞踊とか、そういった鑑賞ですよ、鑑賞をするのも大事ですけども、そこに文化振興、要は参加者がどう発信していくかというところが表現していただければもっと広がるのかなというのにはちょっと感じました。あと3ページのホールのところなんですけれど、主な事業の中にコンサートとか色々あるんですけど、この中に、これ細かいところなんですけれど、発表会、これ身近な市民の発表会っていう、そういうものがあったもいいのかなっていうのはちょっと感じました。

◇（委員長）

はい、ありがとうございました。最後の点なんですけど、文化振興という時に、市民の発表会の事を、入ってないよということのご指摘だと思うんですけど、事業方針の①、②はですね、これジャンルの事を言っていて、鑑賞なんだけどピアノ発表会を含んでいるとも読めるんですよ。次の3ページのホールの主な事業のところ発表会って無いじゃないかって言うんですけども、コンサート、演劇・舞踊公演っていうのがプロだアマチュアだとは書いてありませんから、これに入っているという解釈

もできると。ただ分けとけば貸館事業というのを入れるかどうかですね、そこをだから議論した方がいいかなと思うんですけど、普通考えたらありますよね、貸館の方が多いと思うので、そこはどう表現するかの話なので、私としては別にだからと言って文化振興をないがしろにしているとはちょっと思わないんですけど、そういう風に受け取られる方が居られるかもしれませんね。それは恐らく施設の規模が違うから、とりぎん文化ホールの2,000席のホールと800席のホールでは違うということがあると思いますけれど、事務局の方で今のところで何か。

⇒（事務局）

今の文化振興ってところが事業方針とか、市民が主導する文化振興ってところがホールの事業方針案のところちょっと見えないんじゃないかというご指摘と、主な事業のところに発表会ってというのがあってもいいのではっていうことだったんで、ちょっと事務局の方で検討してみます。何かそういった事業方針で入れるような表現とか、主な事業のところでそういったものを入れた方が、委員長が言われたみたいにそういったのに含まれているということもあるので、その辺はまた事務局で考えたいと思います。

◇（委員）

3ページの「学校活動の支援」を、学校に限らずに市民をそこに入れて「学校・市民活動」にしたら。4ページの事業方針③も市民活動も入るように。

◇（委員長）

市民の文化の支援っていうか、1個新しいのを作ったらいいんじゃないですか。厳密に言うと何で学校だけ取り出すのか、議論があるんですけど。だからあまり付けるとわかりにくくなるから、書くとしたら市民の文化活動の何だか、何て言ったらいいかわかりませんが、それを応援する、場の提供みたいな。発表会だ合唱だ何だと一杯あると思います。一番多いんじゃないかと思いますが。

⇒（事務局）

例えば、今のところだと、学校って事で学校活動っていうことでしてはいますが、そこに市民とかというのも含めて、分けた方がいいですか。

◇（委員長）

学校が最初で市民となると学校を優先しているなと読んじゃいますよね、普通。学校は学校、市民は市民という風に分けといた方が、独立性があって、一般の人がまず学校って書かれてあると、私たちは出れないよねと思うでしょ。入口の話ですけど。実際は実害がないかもしれないけど。市の姿勢が表れるので、そこははっきり書いた

方がすっきりするんじゃないかと思います。

⇒（事務局）

ちょっと検討させてください。

◇（委員長）

ほかにありますでしょうか。さすがに事業になるとかなりの文量が出てきましたし、まだまだあると思うんですけど、先程ご意見もありましたけど、管理運営計画全体との整合性をもう1回見直して、精査していく機会、もう1回ぐらい必要かと思いますので、修正したものをまたベースにしてもう1回したいと思います。他に気が付いた点はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

◇（委員）

この前、もっと詳しいものが出るっていう事があったと思いますが。

◇（委員長）

どうでしょうか。それは我々が議論してまた事務局と相談なんですけど。これより詳しいというか、さっき私のイメージですけど、今日の事業計画の5ページっていうのは、事業方針が出ましたよね。その次に、例えば図書交流広場の①の資料を充実、じゃあ具体的に何かっていうのを、本当に最後の最後に細かいのを書いていくということをする。

◇（委員）

それもここでまた議論されるんでしょうか。

◇（委員長）

それはここでも意見を言ったらいかがですか。我々の意向というか、それを言っていて、事務局が考えていることはあると思いますが、私たちがそれをやらなきゃいけないんじゃないのという事であれば、やってもら。ですから、これは最終的には評価書になっていくんですね。例えば、図書交流広場で「知の拠点として市民の要求に応えるため、資料を充実させます。」って言ったら、これが良いか悪いか別ですよ、その次に評価していくんですよ。じゃあ資料って何点揃えるの、図書購入費いくらなのって話になって、これが目標に行かなかったら、評価が下がるわけですよ。だから結構リアルな話これからなので、割と気楽にこれがいいやという話では、実は行政の方はないんですよ。だから自分たちが自分たちの手足を縛っていくことになっていくので、これから人口も減って、若者が減ってですよ、税金が減る中で、どういう風にやっていくかという話をベースとして、出来るだけいいスタート

したいねという話なので、ぜひこれが評価指標にも繋がっていく、このままじゃないかもしれませんがね、それはちょっとご理解いただきたいと思いますし、どうでしょう、細かい1つ1つの事業、かなり無数にある、無数でもないか、やれるのかな、事務局どうですか、そこら辺、進め方。

⇒（事務局）

この会の中では、そこまで細かい事業のところまでは、管理運営計画としてはちょっといけないのかなと思っています。ある程度おんぼらと言ったらおかしいですけど、したやつで最終的に開館までに、具体的にこれについてはこうこうという形に。

◇（委員長）

例えば、既存の古い施設で、図書館の既存の過去のデータを持ってきて、それを当てはめていく作業はできるんですね。したら、こことここはやってたよね、ここはやってないよねということは可視化できるかと思います。それはまあやれないことはないと思いますけど。とりあえず事務局としてはこれ以上細かいところまではやるつもりはありませんということなんですね。だからそれぞれの専門の立場から今日のこの議論を踏まえて、あれが抜けてたというのがあったとすれば、また言っていただいて、追加していくということになるかと思っていますし、構造上の事と、それから階層性の問題とワーディング、言葉の問題といくつか違う主義のものがありますけれど、そこをきちり、やっぱり作っていくのは大変難しい作業です。非常に全体を眺めてみたら矛盾があったりしますので、最終的には一覧ができるような形で資料を作ることになりますけれど、とりあえずそのたたき台を今日、議論をしていると。事務局の方にお願いなんですけど、私が今言ったみたいに基本方針と事業の関係が分かるような資料作りをしていただいたらいいかなと思いますので、また次回あたりにそれを見ながら議論をすればいいのかなと。先ほどの管理運営計画の基本方針も含めて、何かありましたら。無いようでしたら。

◇（委員）

前回に、色々広報を頻繁にしていた方がいいんじゃないかっていう意見が出たんですけども、例えば、市報に交流センター情報みたいなのを2ヶ月に1回くらいコーナーをしていただいて、今、市民会館、ここまで解体しましたよとか、運営計画ではこういう話し合いをしましたよとか、図書館では今はこういう貸し出し、不便をかけますけどこんな状態ですよとか、何か現在進行形で情報を、リアルタイムっておっしゃったんですけど、そういう風に発信していけば、今、交流センターの事がこんなところまで進んでいるなという風に市民の人も楽しみにして待たれるんじゃないかなと思います。

⇒（事務局）

基本設計が終わった段階で、毎月のように、各機能ごとにこういった基本設計の案になりましたというのを載せてましたけど、管理運営については、特に市報で云々ということはないので、何らかの形で市民への周知というか、10月号は出たばかりなので、11か12月号くらいで、今までの管理運営で今こういう事を議論してきましたということとか、市民会館の方は1回市報で解体したものが出ましたけど、管理運営については今まで出てないということがあるので、事務局の方でも何回やって、それぞれの回でこういう事を議論していますというようなことをちょっとお知らせするようなことはやってもいいのかなと思いますので、考えさせてください。

◇（委員長）

それとは別に市報の正月特集に、ぜひ写真を入れてできますよというアナウンスをしたらいいかなと思います。市長と誰か対談したり。よろしいでしょうか。では今日予定した議題は以上なんですけど、その他何か、委員の方々の方で、何かあればご発言いただければと思います。ございませんか。

◆次第3 その他について

・第6回の検討委員会について

○事務局から説明

◇（委員長）

次回は、10月の下旬ということで、日程調整がありますので、ぜひまたお繰り合わせの上参加していただけたらと思います。今日はこれで閉じたいと思います。どうもありがとうございました。